

妙法寺参拝の
移り変わり

原田 弘

かつての妙法寺は清浄無量壽院、橋下から南に分かれ、ここが起点で最近まで、「御無沙汰道場」の日常宗お願目録とその下に十八町十間と通じるべき聖地たる石塔が立っていた。今この石塔は中野の地から移築に辱され、園七の神足寺人口典に大切に保管されている。

さて、この妙法寺通りはお寺並約二キロメートルで、明治開までは参拝者も多く、ことに十二、二十三日の園日には地域の参行人であったのである。途中料亭も五軒位あり、その中でも今の女子美術大学北側にあった「花がら木」は敷地一万坪といわれた。聖下って元山平ストアーの跡には「福園」とは標木、園七の料亭があり、跡には東成寺の



池から湧いてくる小川の水を引き入れ種などを潤っていたが日蓮宗の影響で池を掘削して溜らなかつたといふ。その他にも今の園七と妙法寺口の角、例のお願目の石塔のある一角に池にはあるが「花がら木水塔園」があった。

また、園の方に「花園」、そして妙法寺入口、今のサエマツのある処に「天つた」という料亭があり、梅日の日には別として、十月十三日のお盆式の目など、妙法寺の御堂灯行進が前神社から豊原神社の太鼓行進の先陣を歩いてきます。それを二回原宿から人々は待たせりになって始めていたものである。当時、橋下であるが、寺の入口敷地内に交差があり通りは出るわで大成してあつたといふ。

妙法寺お願目録

これらの五町の料亭の共通した名物料理は「のつべい汁」と原寺の五子焼である。つたやうで、治癒のお願目録は、徳富園子やら揚げ焼餅、秋などは責任の妙を兼ねて戸敷の上にとんがらし等と共に並べて売っていた。明治の参り頃までは題目にはお願あつたりの作願書のあれいところ、が人力車に乗ってお参りに来たもの、その人力車を待たせりて建物の裏裏が後ろにぶら下がってひっくり返したなど、ことに元山平ストアー先のより家は聖徳宗だつたと古来の話には通い書を懐かしむよう。

この光面の妙法寺通りも明治半ばに中野駅からの新道の開通によつて衰微して行くことになつた、明治については編纂を改めて載せよう。またこの中で特記したいのは明治十五年(一八八二)と、門前町や山門にガス灯がつけられたことです。



妙法寺の敷地がまんじゅう

原田 弘 氏